明治大学
商学部

し

# 世界史B問題

はじめに，これを読むこと。

1. この問題用紙は，17ページまである。ただし，ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
2. 解答用紙に印刷されている受験番号が正しいかどうか，受験票と照合し，確認すること。
3. 解答用紙の所定の欄に氏名を記入すること。
4. 解答は，すべて解答用紙の所定の欄にマークするか，または所定の欄に記述すること。
5. 解答は，必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれもHB・黒)で記入しなさい。
6. 訂正は，消しゴムできれいに消し，消しくずを残さないこと。
7. 解答用紙は，絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。また所定以外のところには，絶対に記入しないこと。
8. 問題に指定された数より多くマークしないこと。
9. **解答用紙は，持ち帰らないこと。**
10. この問題用紙は，必ず持ち帰ること。
11. この試験時間は，60分である。
12. 解答をマークする場合の注意。

(マーク記入例)

| 良い例 | 悪い例 |
|---|---|
| ● | ◉ ⊗ ○ |

〔Ⅰ〕 次の文章をよく読み，下記の設問に答えなさい。

紀元前5世紀前後にインドで成立した仏教は，その後マウリヤ朝の保護を得てインド各地に広まった。仏教は，その後，二大流派が成立した。その一つ，大乗仏教は，2～3世紀に，『中論』を著した［ア］により理論的に確立されたといわれ，当時，西トルキスタンから西北インドを支配したクシャーナ朝のもとで栄え，その後，西域を経て，中国・朝鮮・日本・ベトナムなどに広まった。また，アショーカ王の時代に，［イ］島，すなわちスリランカに伝えられた仏教は，その後，上座部仏教として，ミャンマー・タイ・カンボジアなど東南アジア各地に広まった。

だが，インド国内においては，バラモン教と各地の民間信仰が融合したヒンドゥー教が形成され，次第に有力となっていく。かつての隆盛を失ったとはいえ，仏教はグプタ朝，ヴァルダナ朝のもとで一定の勢力を維持し続けた。玄奘，義浄などの中国僧も学んだ［ウ］では，仏教教理の探究が引き続き行なわれている。だが，［エ］時代と呼ばれた8世紀から13世紀にかけ，インド各地に樹立されたヒンドゥー諸王朝のもと，仏教はヒンドゥー教に圧倒され，その勢力を失っていく。わずかにベンガルを中心とした［オ］朝において，仏教は保護され，新たにヴィクラマシーラなど多数の寺院・僧院がつくられ，仏教は最後の繁栄をみた。それゆえ，その王朝の衰退は仏教の衰退を意味した。

中国では，漢代に西域経由で仏教が伝わったといわれているが，一般に普及することはなく，実際に社会に広まったのは魏晋南北朝時代であった。北朝[a]では，皇帝の保護を受け，国家鎮護的性格が強かったといわれ，また，南朝では貴族層に流行した。仏教が中国で広く信仰されるようになるにつれ，中国の固有宗教である道教も，老荘思想など様々な要素を融合しつつ形成されてきた。唐代には道教は帝室の保護を受け優勢となり，宋代以降[b]も栄えた。それに比し仏教は，次第に振るわなくなった。しかし，仏教は中国を経て，その周辺地域である朝鮮・日本・ベトナムなどに広まった[c]。中世日本で栄えた禅宗は中国で始まり，日本に伝わったものであり，同じく日本の浄土系諸宗も慧遠（えおん）や曇鸞（どんらん）などの中国浄土宗（浄土教）の流れを汲んでいる。

東南アジアは，ベトナムを除けば，文化的にインドとの結びつきが強く，1～2世紀にメコン下流域に建てられた扶南以後，東南アジア各地に樹立された諸王朝も，ベトナム南部のチャンパーを含めて，インドの影響を受けた王名を名乗り，王室儀礼を行っていた。インド国内のヒンドゥー化を受け，東南アジアもヒンドゥー教の影響を受けたが，仏教もさかんであり，東南アジアからも，多くの僧がインドに仏教を学びにいっていた。義浄がインドからの帰路，立ち寄り，滞在したシュリーヴィジャヤにおいて著した［　カ　］にも，東南アジアにおいて仏教が行なわれていることが記されている。また，ジャワ島中部のボロブドゥール遺跡は，大乗仏教の遺跡であった。だが，東南アジアの大乗仏教は，ベトナムを除き，その後，いずれも衰退した。かわって，東南アジアで台頭したのは，上座部仏教であった。11世紀，ミャンマーのパガン朝は，早くからインド文化に親しんできた下ビルマの先住民である［　キ　］から上座部仏教を受容した。パガン朝には，その後，スリランカから直接，その教えが伝えられた。タイでは，13世紀，スコータイ朝第3代王ラームカムヘーンによって上座部仏教が国教化され，タイおよびタイ系諸族のあいだに浸透した。

紀元後1世紀，パレスチナに成立したキリスト教は，次第にローマ帝国内に伝播し，ついにはその国教となる。431年，エフェソス公会議においてネストリウスの教えが異端とされる。ネストリウスの教えを支持する人々は，以後，ササン朝を中心に東方への布教に努めた。イスラームのペルシア征服後も，ネストリウス派は教勢を維持し続けており，インドや中国への布教も行なわれた。ネストリウス派キリスト教は，唐代中国では景教と呼ばれた。中国における景教はあまり振るわなかったが，モンゴル系やトルコ系部族のなかでは，ネストリウス派は多数の信者を獲得し，チンギス＝ハンの一族にも信者を得ており，その一部は，バトゥやフラグとともに，南ロシアや西アジアへの遠征に従った。だが，モンゴル系諸ハン国のイスラーム化とともに，ネストリウス派は急激に衰退した。

7世紀，アラビアに成立したイスラーム教は，ウマイヤ朝，アッバース朝の領土拡大とともに，西は北アフリカ，スペインへと広まり，東はペルシア，中央アジアに広まり，その後，インド，中国へと伝わった。イスラーム教のインド進出は，10世紀末に始まり，ガズナ朝，ゴール朝以降，強力に進められ，デリー＝

スルタン朝に引き継がれた。イスラーム教によって打撃を受けたのは，ヒンドゥー教ばかりではなかった。もともと，衰えつつあった仏教は，イスラーム軍のベンガル遠征によって，決定的なダメージを受けた。後に，奴隷王朝の創始者となるアイバクの軍隊は，1193年，［ウ］を破壊し，つづく1203年，ヴィクラマシーラ僧院を破壊した。これら後期インド仏教の拠点の破壊は，王朝の保護を失った後も，辛うじて維持されてきたインド仏教の命脈を断つことになった。

イスラーム教を広めるのに力があったのはイスラーム軍だけではなかった。8世紀頃からイスラーム商人がインド洋を舞台に活躍していた。彼らは主に三角帆を持つ帆船である［ク］船を操り，季節風を利用しインド洋を往来し，さらに中国にまで赴き交易を行なっていた。その中継地であるマラッカやパレンバンなどにイスラーム商人が住み，マラッカ海峡周辺にイスラーム教が広まる契機となった。15世紀半ば，マラッカ王がイスラーム教を受入れ，また，15世紀末に興ったスマトラ北部の［ケ］王国もイスラーム王国であった。元の襲来以来，インドネシアを支配していたマジャパヒト朝は，このようなイスラーム勢力の台頭の前に衰え，滅びた。

イスラームの勃興以後，ほぼヨーロッパに閉じ込められた感のあったキリスト教ではあったが，11世紀末以降，十字軍の派遣を契機として，東方布教への様々な試みがなされた。以前よりヨーロッパでは，東方にキリスト教国が存在し，キリスト教徒の王によって治められているという［コ］伝説があり，それらの試みの誘因となっていた。十字軍は幾度も行なわれたが，強力なイスラーム軍の抵抗にあった。また，ユーラシアに跨る大帝国を建てたモンゴル支配層へのカトリック教会の伝道も成果をあげることはできなかった。だが，西欧列強は，大航海時代以降，強力な航海技術を駆使し，インド洋から，東アジアへと進出し，同時にキリスト教布教にも力を入れた。しかし，明・清両朝に代表される中国のように，強力な専制国家に阻まれ，民衆への布教[d]それ自体，容易なことではなかった。また，インド[e]・インドネシア・ビルマ・カンボジアのような，列強の植民地となった国々においては，ヒンドゥー教・イスラーム教・上座部仏教の分厚い守りを崩すことはできなかった。そのなかでは，フィリピンのキリスト教化が唯一の大きな成果であったといえる。

19 世紀後半以降，欧米列強の帝国主義化した植民地政策のもと，欧米の宣教師団のアジア布教が盛んとなった。そして，このような布教に成果があったのは，それぞれの植民地の主要民族に対してではなく，それとは異なる文化を持つ人々，少数民族や山岳民族と呼ばれる人々に対してであった。そのことは，各植民地の独立後に，難しい問題を残すことになった。

設問 1　文中の空欄(ア～コ)に最も適する語句を記入しなさい。

設問 2　文中の下線部(a～e)に関する下記の設問に**漢字**で答えなさい。

a　仏教を弾圧し道教を国教とした北魏第 3 代皇帝の名称を記しなさい。

b　金代に華北において，儒教・仏教・道教の三教一致を掲げる全真教が開かれたが，その開祖の名称を記しなさい。

c　中国を経て仏教は，その周辺国に広まった。そのような国のなかで，「海東の盛国」と呼ばれ，仏教も盛んであったのはどこか，その名称を記しなさい。

d　清代，1850 年に蜂起した太平天国軍の中心は拝上帝会であったが，それは民衆のキリスト教的宗教結社であった。洪秀全などその指導者たちは，漢民族の一支系の出身者であった。彼らは，広東・広西・江西・福建などの山間部などに住み，海外へ出稼ぎにいったり，移民したりするものも多かったといわれる。こうした人々の名称を記しなさい。

e　近代，とくに 19 世紀以降，英領植民地インドから多くの移民が東南アジアに行き，マレーのゴム農園やシンガポールの港湾労働など苛酷な労働に従事した。多くは，小作農民，低いカースト，南インドのタミル人たちであった。これらの移民を何と呼ぶか，その名称を記しなさい。

〔Ⅱ〕 次の文章をよく読み，文中の空欄(1～10)にもっとも適する語句を記入しなさい。

新大陸を「発見」したコロンブスは，マルコ＝ポーロの『世界の記述』の愛読者だった。それによれば，中国の杭州は世界で一番豪華で豊かな都市であり，泉州は宝石と真珠の集積地だった。中国の東には金銀と宝石が豊富な島としてジパング(日本)も描写されていた。コロンブスの航海の目的はオリエント世界の財宝の入手であった。1492年，コロンブスは3本マストの遠洋航海用帆船サンタ＝マリア号に乗船し，スペイン西南海岸のパロス港を出航した。コロンブスが最初に到達したのはカリブ海の [ 1 ] 諸島の一島で，サンサルバドル島と命名された。第3回の航海では，ついに新大陸の一部であるパリア半島に到達した。この地域は，後にラテンアメリカ独立運動の指導者である [ 2 ] の活躍によって大コロンビア共和国の一部として独立することになる。パリア半島は真珠を多く産出し，その報告は本国のスペイン人の欲望をかき立てた。

16世紀はじめになると，真珠と黄金を求めて，現在のパナマやコロンビアにもスペイン人が出没するようになった。1513年，スペイン人の探検家である [ 3 ] がパナマ地峡を横断してカリブ海とは異なる海，つまり太平洋があることを発見した。先住民はこの海の南方に黄金豊かな国があると話していた。彼の部下だったピサロはその噂を信じ，南下してペルーのインカ帝国を攻撃し，大量の金銀を略奪した。

黄金に魅せられたのはスペイン人征服者たちだけではなかった。イタリア人探検家の [ 4 ] は，イギリス王ヘンリ7世の後援で北米大陸沿岸を探検した。エリザベス1世の時代には，アメリカ大陸からスペインに銀を運んでいた船団を襲う [ 5 ] という民間の武装船が活動していた。[ 5 ] は国家から許可を受けており，イギリスの重要な海外戦略の一つとなっていた。そうした活動に従事していた有名な船長である [ 6 ] は，イギリス人として初めて世界周航を達成し，のちに無敵艦隊との戦いでも活躍した。

一方で，イギリス知識人のなかには，新大陸に領土を持つべきであると考える人々もいた。その中心にいたのが，エリザベス1世の寵愛を受け，大西洋探検に

参加したイギリスの軍人 [ 7 ] であった。彼は南米大陸の富を奪う攻撃拠点を造る目的で，北米大陸に植民地を建設しようとしたが失敗した。しかしその後，「ギアナ帝国の黄金都市マノア」を探しにオリノコ川まで赴いたという冒険記を書いた。

中米でもメキシコのサカテカスの銀山を中心に，盛んに銀が生産された。スペインはフィリピンのマニラを拠点に，広大な太平洋を超えて，中国の絹や陶磁器をメキシコの銀と取り引きした。このガレオン船で行われた貿易は，メキシコ太平洋岸の起点となった港の名称から [ 8 ] 貿易と呼ばれる。

一方で，征服下に置かれた先住民の生活は悲惨であった。国王が植民者に対し，征服地の先住民をキリスト教徒化させることを条件に，労働力として使役することを認めた制度である [ 9 ] 制を，スペインは採用していた。この制度により，先住民は征服者たちによって酷使されていた。スペインのドミニコ派修道士ラス＝カサスは，先住民の悲惨な状況を『インディアスの破壊についての簡潔な報告』という報告書に記し，スペイン国王に直訴した。その後新大陸には先住民の代わりの労働力として，アフリカから大勢の奴隷が連れてこられるようになった。こうしてラテンアメリカの植民地では，本国人を支配層とし，植民地生まれの白人，白人と先住民の混血，先住民，白人と黒人の混血である [ 10 ] ，そして最下層に黒人奴隷を置く人種的身分社会が形成された。

〔Ⅲ〕 次の文章をよく読み，下線(1～10)に関連するそれぞれの問(1～10)にもっとも適するものを(A～D)の中から一つ選び，解答欄にマークしなさい。

帝国主義列強国の対立・緊張関係を背景に勃発した第一次世界大戦は，ヨーロッパを主な戦場としつつも，人や物を供給していた周辺の植民地をも巻き込む，人類はじめての総力戦として拡大していった。イギリス・フランスは第一次世界大戦の処理を行うパリ講和会議でウィルソンが提唱した十四カ条を基本原則として，植民地や自国の勢力圏での利害確保を最重要課題とし，ドイツに対して制裁的態度を取った。この大戦を契機に築かれたヴェルサイユ体制は，不安定要因を内にはらみつつも，賠償問題の基本的解決をはかり，1920年代の半ばにはヨーロッパを一定の安定へと導いていた。この大戦中，ロシアでは十月革命がおこり，世界最初の社会主義国が成立する一方，アメリカでは，ワシントン会議[1]の開催を通して，国際協調による利害の調整が模索された。他方，アジアの植民地では，日本の大陸進出が顕著となった。新たな植民地支配に対抗する民族主義運動がソ連を中心に組織されたコミンテルン[2]の協力のもとで活発化し，社会的不安定要因を拡大させた。こうしたなかで，第一次大戦後の世界は，ソ連を中心とする社会主義(共産主義)陣営と，アメリカを中心とする資本主義(自由主義)陣営という，のちの冷戦構造の原型ともいえる二つの政治・経済体制間の対立構造を生み出すこととなった。

ソ連[3]では，戦時共産主義という厳しい統制経済によって，1921年には深刻な飢饉がもたらされ，農民反乱が各地に広がっていた。1921年3月，クロンシュタット要塞で水兵反乱がおきたことも契機となり，レーニンは1921年3月，第10回共産党大会でネップ(新経済政策)[4]を採択した。レーニンの死去後，共産党指導部内での権力争いが激化すると，スターリンは，もう一人の有力な後継者と目されていたトロツキー[5]と鋭く対立していった。1927年の党大会でスターリンは，トロツキーや元コミンテルンの議長，ジノヴィエフを排除して，専制的権力の基盤を強化した。

スターリンら指導部は1928年には，社会主義建設を推進するために急速な工業化を目指す第1次五カ年計画に乗り出していく。これと並行して，1929年に

は農業の集団化・機械化政策が導入され，農村では集団農場・国営農場[6]建設が強行されたものの，農民の労働意欲の低下によって，やがて生産は大きく落ち込んでいった。1932〜34年，ウクライナやヴォルガ流域などの穀物地帯では大規模な飢饉がおこり，400万人余りの死者を出すに至った。資本主義諸国における世界恐慌の影響を受けずに，社会主義の建設を順調に進めているかに見えた計画経済のもとで，スターリン[7]は反対派とみなされた多くの人々を厳しく弾圧した。1936年，スターリン憲法が発布されると，共産党の一党支配がさらに強化されるとともに，ソ連は西側の資本主義陣営との対立構造を強めていった。

一方，アメリカは，第一次世界大戦中の連合国に対する借款の供与，軍事物資や食料の提供などによって，戦後には戦前の債務国から債権国へと転じていた。アメリカはヨーロッパへの政治的関与を避けつつも，軍縮や国際協調を推進するために指導的役割を果たし，ドイツの経済復興や，中国の民族運動を支援した。1920年の大統領選挙ではハーディング[8]が圧勝し，それ以後，クーリッジ，フーヴァーと3代にわたって長期の景気拡大が続いたが，それは「黄金の20年代」[9]と呼ばれることとなった。この時期には，自動車の大衆化，家庭電化製品の普及，スポーツやジャズなど大衆娯楽の発展がみられた。これらによってアメリカにおける現代大衆文化が成立した。だが，この時期には，アメリカの伝統的白人社会の価値観をアメリカニズムとして強調することによって，逆にそれとは相容れない集団や思想を排斥する傾向も強まっていった。黒人差別組織であるクー＝クラックス＝クラン(KKK)[10]の活動の活発化や「赤狩り」などはまさにそうした傾向の現れであった。

問 1　下線部 1 に関連して，ワシントン会議がもとになってつくられた国際体制(ワシントン体制)についての次の文章のうち，もっとも適切なものを選びなさい。

A　海軍軍備制限条約では，当時の主力艦保有率をイギリス・アメリカ・日本・フランス・ドイツに 5・5・3・1.67・1.67 と定めた。

B　四カ国条約では，アメリカ・イギリス・フランス・ドイツが，太平洋域の領土と権益の相互尊重と諸島嶼の非軍事基地化を約束した。

C　九カ国条約では，アメリカ・イギリス・日本・フランス・イタリア・中国・オランダ・ベルギー・ポルトガルが，ドイツの主権・独立の尊重，領土保全，機会均等などを約束した。

D　九カ国条約では，中国に対するアメリカの主張が通り，石井・ランシング協定は失効し，日本の中国進出は二十一カ条要求以前の状態に後退した。

問 2　下線部 2 に関する次の文章のうち，もっとも適切なものを選びなさい。

A　世界の共産党などの左翼勢力がロシア共産党の指導を受けて，1919 年，モスクワで結成した組織で，第 2 インターナショナルとも呼ばれる。

B　1920 年代には，世界革命とソ連の擁護のため，30 年代にはファシズム勢力との戦いのためさまざまな指令を出したが，第二次世界大戦勃発後，連合国との協調を優先させるために解散された。

C　コミンテルンの指導によって，毛沢東を初代委員長とする中国共産党が結成された。

D　1935 年のコミンテルン大会で正式に認められた人民戦線は，同年にフランス・スペイン・イタリアで成立したが，長続きしなかった。

問 3　下線部 3 に関連して，ソ連との国交回復やソ連承認に関する次の文章のうち，**誤っているもの**を選びなさい。

A　ドイツとはラパロ条約によって国交を回復した。

B　イギリス・フランス・イタリアは 1924 年にソ連を承認した。

C　アメリカがソ連を承認したのはローズヴェルト大統領のときであった。

D　日本がソ連を承認したのは，列強の中で一番遅かった。

問 4　下線部 4 に関連して，戦時共産主義期およびネップ(新経済政策)期のソ連経済についての次の文章のうち，もっとも適切なものを選びなさい。

A　戦時共産主義体制下では，労働義務制と食糧配給制，農民からの穀物強制徴発などを強行した。

B　戦時共産主義体制下では，私企業が一切禁止されたが，中小工場が国有化されることはなかった。

C　ネップ期には，極度に低下した生産を回復するために，その主要な経済政策として，賃金の代わりに現物給与が行われた。

D　ネップの採用によって，穀物徴発制が廃止され，大規模な私企業，中農の経営が認められたため，生産意欲が大きく刺激された。

問 5　下線部 5 に関する次の文章のうち，もっとも適切なものを選びなさい。

A　レーニンを助けて十月革命を指導し，外務人民委員として内戦時には赤軍を創設した。

B　その革命論とは，一国だけでも社会主義を存続させることができるという一国社会主義論である。

C　スターリンとの権力闘争に敗れて国内で処刑された。

D　1917 年 10 月，レーニンやトロツキーの指導で，メンシェヴィキ派の兵士や労働者が立ち上がり，ケレンスキーの臨時政府を倒した。

問 6　下線部 6 に関する次の文章のうち，もっとも適切なものを選びなさい。

A　農業の集団化による集団農場は，ソフホーズとも呼ばれ，すでに五カ年計画以前に全国に拡大していた。

B　国営農場は，コルホーズとも呼ばれ，土地と生産用具は国有で，農民は俸給制で働いた。

C　国営農場とは，五カ年計画を通じて，旧地主の大農場から転換していったものである。

D　集団農場と国営農場は，ともに第 1 次五カ年計画の失敗を契機に取り入れられた，市場経済の競争原理を柱とする，農業分野における社会主義的混合経済政策である。

問 7　下線部 7 に関する次の文章のうち，もっとも適切なものを選びなさい。

A　スターリン憲法が制定された 1936～37 年頃，スターリンによる反対派への粛清は，その最高潮を迎えていた。

B　スターリン憲法が成立したことが契機となり，ソ連は国際連盟への加盟を果たした。

C　カイロ会談に出席した。

D　スターリンの死去後，ブレジネフがスターリン批判を行った。

問 8　下線部 8 に関連して，ハーディングとその大統領任期期間のアメリカについて述べた次の文章のうち，もっとも適切なものを選びなさい。

A　1920 年代の好景気に支えられて自由放任主義を進めた，民主党の大統領である。

B　自由放任による資本主義の「永遠の繁栄」を主張し，アメリカ経済の繁栄に楽観的な見方を示した。

C　保守主義・孤立主義の風潮に乗り，「平和(常態)への復帰」を訴えて当選した。

D　当時のアメリカ社会の保守主義・独善主義を象徴する事件として知られているサッコ・ヴァンゼッティ事件がおきた。

問 9　下線部 9 に関連して，1920 年代のアメリカ社会に関する次の文章のうち，**誤っているもの**を選びなさい。

A　「黄金の 20 年代」は，逆に「金ピカ時代」とも皮肉られた。

B　禁酒法がしかれていた。

C　女性参政権が認められた。

D　ラジオの正式な公共放送が開始された。

問10　下線部 10 に関連して，クー＝クラックス＝クラン(KKK)とそれを生んだ当時のアメリカ社会について述べた次の文章のうち，もっとも適切なものを選びなさい。

A　1865 年，イリノイ州で結成された反黒人秘密組織である。

B　南北戦争後の北部では，黒人と分離するために設けられた白人専用の部屋や座席がジム＝クロウと呼ばれた。

C　KKK が結成された年に，奴隷解放宣言を明文化し，奴隷制度の全面的廃止を謳う憲法修正第 13 条が制定された。

D　ワスプ(WASP)とは，南部都市の黒人中産階級のことを指し，1920 年代のアメリカ社会における被差別階級の中心となっていた。

〔Ⅳ〕 次の文章をよく読み，下線(１～10)に関連するそれぞれの問(１～10)にもっとも適するものを(１～４)の中から一つ選び，解答欄にマークしなさい。

人類はさまざまな力(エネルギー)を動力としてもちい，生活を豊かにしたり，巨大な建造物をつくったりしてきた。最初の動力は人間自身であったが，人間の力はあまりにも微力であった。しかし，ころ・梃子・滑車等を利用すれば，かなりの重さのものを移動したり，持ち上げたりすることができた。

人間はやがて動物の力を利用することをおぼえた。牛や馬や駱駝は，古くから人間とともに生活し，家畜として人間の役に立ってきた。エジプト[1]のピラミッドや中国[2]の万里の長城も，ほとんどが人間や動物の力を利用して建設されたものである。古代ローマが建設した石敷きの道であれば，馬に引かせた馬車や戦車を高速で移動させることもできた。力の強い牛や馬は，中世ヨーロッパ[3]において農耕作業にもちいられた。重量有輪犂の利用は，諸侯や修道院[4]などによる開墾運動とともに，農業生産の拡大に貢献したのであった。

人間はつぎに自然の力を利用することを考えた。風力や水力である。風力は風車として穀物の製粉作業に利用されたが，オランダ[5]などの土地の低い地域では，風車は揚水・排水設備としてもちいられた。風力はまた帆船の動力となり，世界の交易の範囲を飛躍的に拡大させた。水力を利用した水車も当初は揚水や製粉作業に用いられることが多かったが，中世以降，さまざまな工業の動力として利用された。イギリス[6]産業革命初期には，水力を利用した水車が工場の主たる動力源であり，工場は必然的に水流のそばに立地しなければならなかった。

蒸気機関の発明で有名なのはワットであるが，彼以前にもイギリスのセイヴァリやフランス[7]のパパンらによって，シリンダー内の真空を利用する気圧機関が考案された。しかし，実用化されたのはイギリスのニューコメンの機関であり，ワットの蒸気機関はこのニューコメンの機関を改良したもので，主として鉱山の揚水機として利用された。工場が都市部に立地しだすのは，ワットが発明した蒸気機関の上下運動を回転運動に変換する機構が発明されてからであった。ここにいたって人類は，その場で消費しないとなくなってしまうエネルギーではなく，過去に蓄積されたエネルギーを，すなわち石炭や石油[8]として埋蔵された鉱物資源を

燃焼させることにより，自由にエネルギーをコントロールすることができるようになった。

熱を動力に変える発想はなかなか思いつかなかったようで，飛行機を考案したとされるイタリアの天才，レオナルド＝ダ＝ヴィンチ[9]も動力は人力に頼っていた。また，イギリスの科学者，ニュートン[10]も蒸気を噴出させる推進力で車を動かす装置を考案しているが，実用にはならなかった。

人類が最終的に手に入れたエネルギーは原子力であったが，この利用には多くの危険がともない，現在では風力・水力に加え，太陽光・地熱・波動など，さまざまな再生可能エネルギーの利用が検討されている。

問 1　下線部 1 に関連して，19 世紀前半のエジプトに関する次の文章のうち，もっとも適切なものを選びなさい。

1　エジプト総督ムハンマド＝アリーは，オスマン帝国の求めに応じてアラビア半島に出兵し，一時ワッハーブ王国を滅ぼした。

2　エジプト総督ムハンマド＝アリーは，オスマン帝国の求めるギリシア独立運動鎮圧のための出兵を拒否した。

3　エジプト＝トルコ戦争では，ロシアがエジプト，フランスがオスマン帝国を援助した。

4　1840 年のロンドン会議でイギリスはエジプトを保護国化した。

問 2　下線部 2 に関連して，中国とヨーロッパ諸国に関する次の文章のうち，もっとも適切なものを選びなさい。

1　16 世紀のヨーロッパでは，中国風のデザインをとりいれたシノワズリが流行した。

2　マテオ＝リッチは『皇輿全覧図』を作成した。

3　フェルビーストは清朝の暦の改定に関与した。

4　ブーヴェは円明園の設計に関与した。

問 3　下線部 3 に関連して，中近世のヨーロッパに関する次の文章のうち，もっとも適切なものを選びなさい。

1　ノルマンの首長ロロは，9 世紀後半，ノヴゴロド国を建国し，ロシアの起源となった。

2　マジャール人が 10 世紀末に建てたハンガリー王国は，14 世紀前半にカジミエシュ大王のもとで繁栄した。

3　デンマーク王女マルグレーテは，14 世紀末にデンマーク・スウェーデン・フィンランドの 3 国でカルマル同盟を結成した。

4　スイスは，15 世紀末に神聖ローマ帝国から事実上独立し，1648 年のウェストファリア条約で国際的に承認された。

問 4　下線部 4 に関連して，キリスト教に関する次の文章のうち，もっとも適切なものを選びなさい。

1　聖職叙任権闘争の過程で，教皇グレゴリウス 7 世は神聖ローマ帝国皇帝ハインリヒ 1 世を破門にした。

2　ラテラノ公会議で神聖ローマ帝国皇帝はドイツ以外での聖職叙任権を事実上放棄し，聖職叙任権闘争は一応終結した。

3　フランス王フィリップ 4 世は，南フランス諸侯の保護をうけた異端のアルビジョワ派を征服して王権を南フランスにもひろげた。

4　教皇クレメンス 5 世のとき，教皇庁はアヴィニョンに移された。

問 5　下線部 5 に関連して，17・18 世紀のオランダに関する次の文章のうち，**誤っているもの**を選びなさい。

1　オランダは西インド会社を設立し，特許権をあたえてアフリカ西岸とアメリカとの通商にのりだした。

2　オランダのグロティウスは，三十年戦争の惨状をみて『戦争と平和の法』を著した。

3　フランス王ルイ 14 世は，オランダへの侵略戦争をおこなった。

4　オランダは 18 世紀中葉，マタラム王国をほろぼし，マレー半島の大半を直接支配下においた。

問 6　下線部 6 に関連して，17〜19 世紀のイギリスに関する次の文章のうち，**誤っているもの**を選びなさい。

1　クロムウェルはスコットランドを征服した。

2　イギリスはオランダが建設したニューアムステルダムを占領し，ニューヨークと改名した。

3　チャールズ 2 世のもとで制定された審査法は，1828 年に廃止され，カトリック教徒も公職就任が可能となった。

4　ハノーヴァー朝のジョージ 1 世は，ジェームズ 1 世の血統である。

問 7　下線部 7 に関連して，フランス革命期に関する次の文章のうち，もっとも適切なものを選びなさい。

1　ルイ 16 世はオーストリアへの逃亡を企て，密かにヴェルサイユ宮殿を抜け出したが，ヴァレンヌで捕らえられた。

2　立法議会はグレゴリウス暦を否定し，革命暦を制定した。

3　コルベールが創設し，フランス語の統一と洗練に寄与したアカデミー＝フランセーズは，フランス学士院に統合された。

4　国民公会が制定したメートル法は，総裁政府によって正式に採用された。

問 8　下線部 8 に関連して，世界最大の産油地域であるアラブ諸国に関する次の文章のうち，もっとも適切なものを選びなさい。

1　1951 年，イランのモサデグ首相は，アングロ＝イラニアン石油会社を国有化した。

2　イラン国王レザー＝ハーンは，モサデグを追放し，アメリカを中心とする国際石油資本寄りの政策をおこなった。

3　1968 年，アラブ産油国は石油輸出機構(OPEC)を結成し，第 4 次中東戦争時に石油戦略を展開した。

4　第 2 次石油危機のきっかけとなったイラン革命時のアメリカ大統領は，レーガンであった。

問 9　下線部 9 に関連して，ヨーロッパ諸国のルネサンスに関する次の文章のうち，もっとも適切なものを選びなさい。

1　フランスのラブレーが『随想録』を書いた。

2　スイスのエラスムスは『愚神礼賛』でカトリック教会を批判した。

3　ドイツのホルバインがエラスムスやイギリスのヘンリ 8 世等の肖像画を描いた。

4　イタリアのブルネレスキがサン＝ピエトロ大聖堂新築の設計をおこなった。

問10　下線部 10 に関連して，17～19 世紀のイギリスの科学者に関する次の文章のうち，**誤っているもの**を選びなさい。

1　ハーヴェーが血液の循環を立証した。

2　ラヴォワジェが燃焼理論を確立した。

3　ジェンナーが種痘法を開発した。

4　ファラデーが電磁誘導の法則を発見した。

〔Ⅴ〕　重商主義について，3 行以内で説明しなさい。